通所系サービスが少ない地域での、通所リハビリテーション事業の展開（5年間の取り組み．2017~2022）

大竹めぐみ[1)]、井上朝陽[1)]、須貝真梨果[1)]、安倍美咲[1)]、手塚誠[2)]、塚本拓[3)]

1）介護老人保健施設マチュアハウス中条　作業療法士
2）同　施設長　医師
3）同　施設次長　理学療法士

（発表者のCOI開示）
演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はありません。

はじめに

2018年度　介護報酬改定

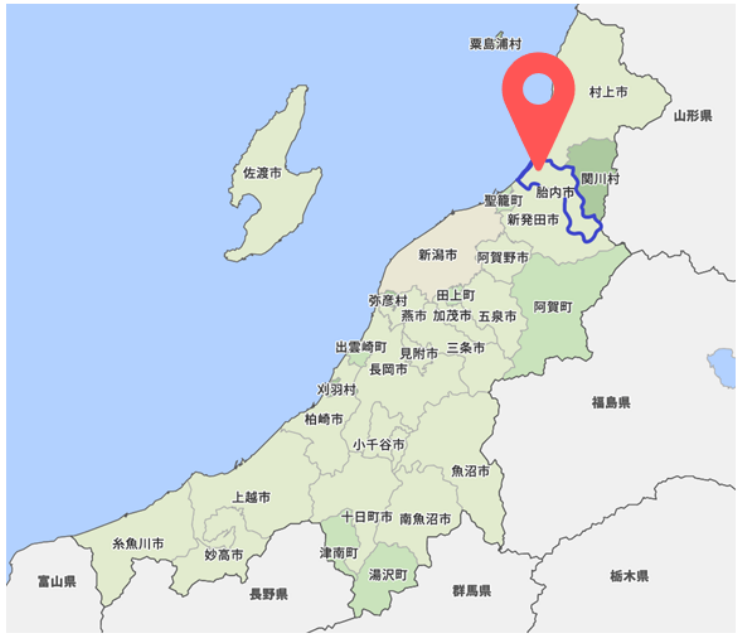
- 生活行為向上リハビリテーション実施加算の新設　（介護予防）
- リハビリテーションに関する医師の関与を強化
- 社会参加支援加算の要件の明確化

  通所リハビリ終了を前提とした報酬体系

通所リハの役割を明確化し、通所介護との差別化を図る改革に着手

5年間の取り組みについて、OTの見解を交えて報告

地域状況



胎内市　データ（2023年）

人口	人口密度	高齢化率
27,422人	108人／㎢	37%
	（県平均：175人／㎢）	（県平均：32.5%）

胎内市　通所系サービス施設

通所リハビリ	4施設
通所介護	4施設
計	8施設

75歳以上1千人あたりの通所系サービス施設

1.5	2.3	3.1
胎内市	新潟県	全国平均

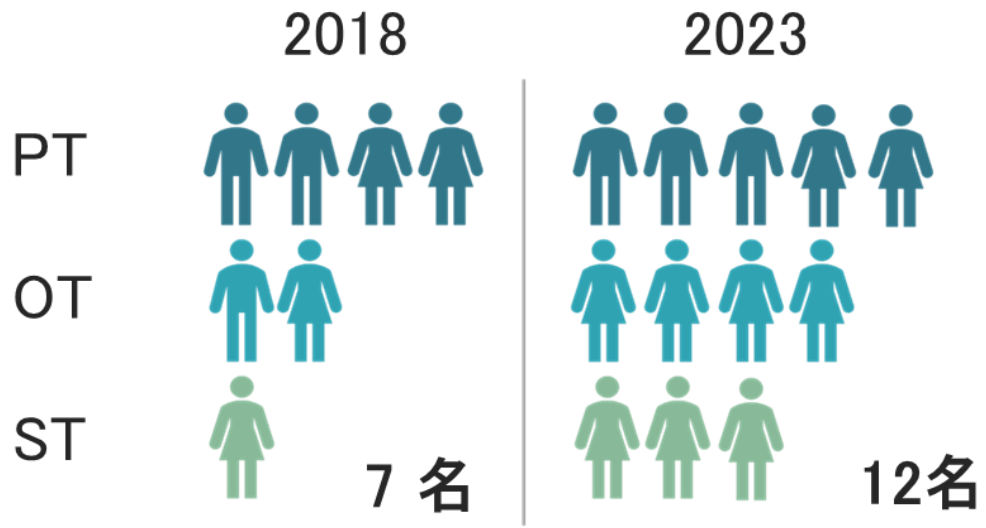
施設状況（2017年頃）

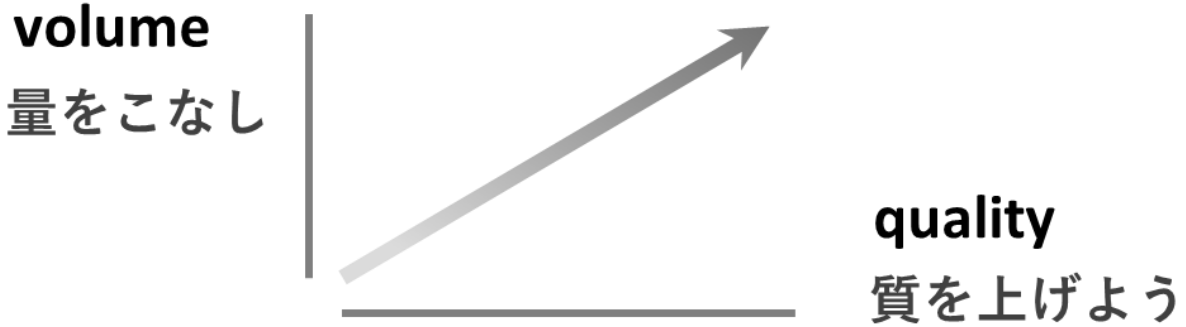
地域のニーズ・地域の認知度

家族やケアマネージャーのニーズの多くは　リハビリテーションより　介護

取り組み　1

配置転換･リハ職員の増員





リハビリテーション量の増大

定員の拡充･サービスの拡充

	2018	2023
定員	20	24
サービス	6-7時間	6-7時間 2-3時間 レスパイト
入浴	希望者全員	必要者

ニーズに応える･入浴は限定

取り組み　２

アウトリーチ・啓発活動

ケアマネージャー向け説明会

通所リハの役割を説明

医師の関与を強化

明確な目標・期間の設定

「 リハビリテーション会議 」

取り組み　3

自治体との連携

胎内市福祉介護課との連携

胎内市総合事業通所C型体験

生活行為向上リハビリテーション

デマンドタクシーで外出

書道教室へ

脳卒中　失語症

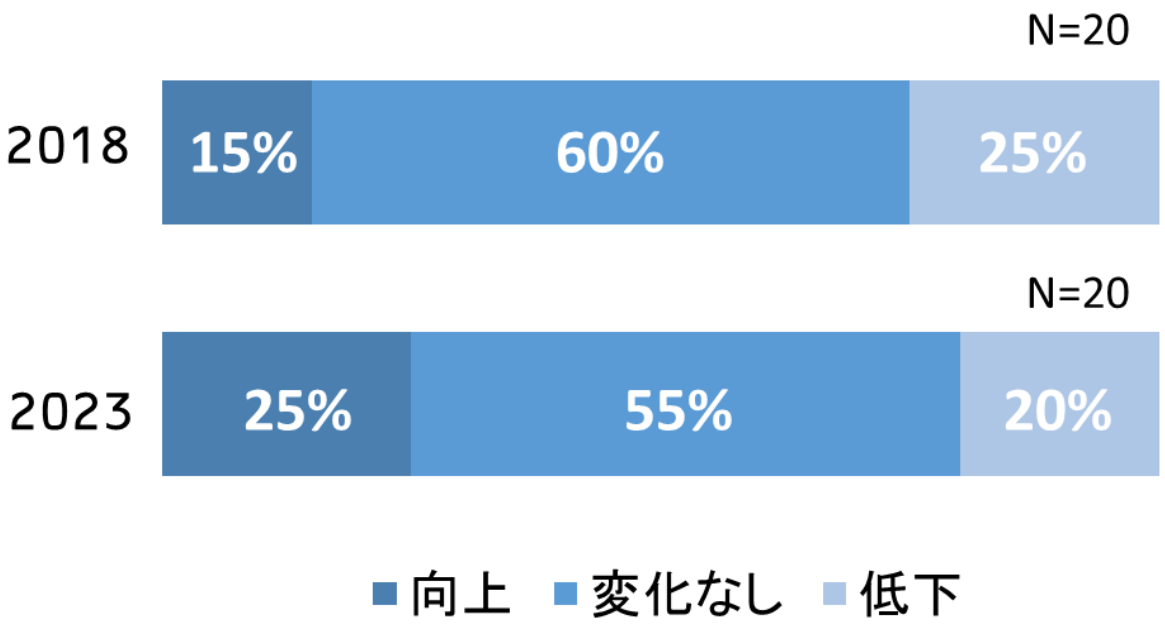
身体障害者作業所へ

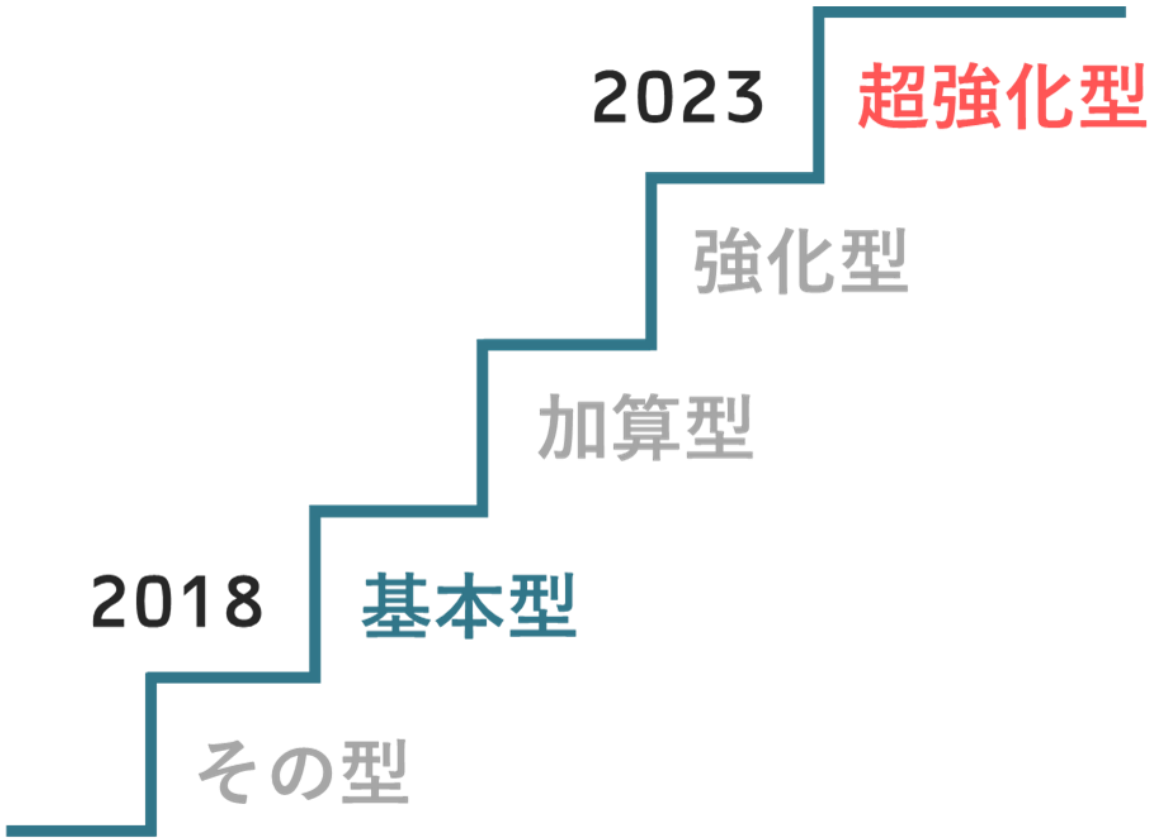
通所リハ終了後を見据えて

活動・社会参加

結果

通所リハ利用開始から3ヶ月後における
ADL（機能的自立度評価法：FIM）点数の変化





「 食事や入浴のついでにリハビリもしてもらえる施設 」から

2017～2022年（5年間）

「 通ってリハビリをする施設 」へ